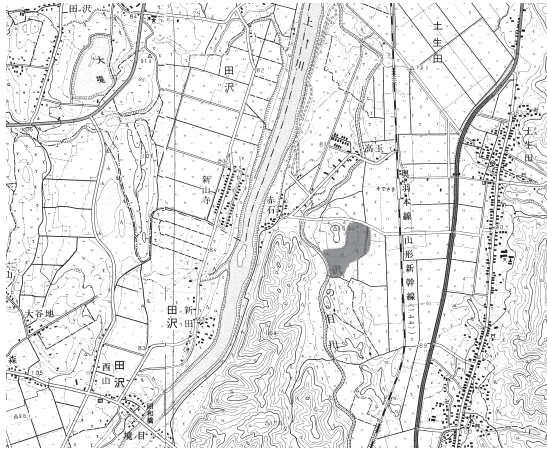


# 沼田 1 遺跡

遺跡番号 昭和 52 年度登録  
調査回数 第 1 次  
所在地 村山市大字土生田字沼田 3340-5 他  
北緯・東経 38 度 32 分 43 秒・140 度 23 分 14 秒  
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所  
起 因 事 業 東北中央自動車道（東根～尾花沢間）建設事業  
調査面積 1,200 m<sup>2</sup>  
現地調査 平成 22 年 5 月 19 日～7 月 7 日  
調査担当者 渡辺和行（現場責任者）・池田透・後藤枝里子・高柳俊輔  
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所  
遺跡種別 集落跡  
時 代 縄文時代・平安時代  
遺 構 ピット  
遺 物 縄文土器・須恵器・陶器（文化財認定箱数：1 箱）



遺跡位置図（1：50,000）

## 調査の概要

沼田 1 遺跡は村山市土生田地区、袖崎駅の南西側に位置する、昭和 52 年度に登録された縄文・平安時代の遺跡である。現在は畑地や果樹園として利用されている。山麓斜面に広がる遺跡で、今回の調査区で標高は 80m を測る。その西側には沢の目川が流れ、周辺には縄文時代早期の赤石遺跡が登録されている。

今回東北中央自動車道（東根～尾花沢間）の建設事業に伴い、事業区にかかる遺跡の中央部分 12,000 m<sup>2</sup>を対象として発掘調査を実施することとなった。

本調査に先駆けて、拡張区の設定をするため、最初にトレンチによる調査を実施した。調査区は北と南の 2 箇所に分かれ、北側 9 本、南側 13 本、計 22 本（1,200 m<sup>2</sup>）のトレンチを調査区内に設定し、遺構・遺物の確認を行った。調査は重機による表土除去後、遺構の検出を行い、写真撮影や図面作成などの記録作業を行った。

## 遺構と遺物

トレンチによる調査の結果、調査区全体として、遺構・遺物共に希薄であった。北側の調査区では倒木痕や近代のカクランなどが検出された。南側の調査区ではわずかにピットが検出されたが、いずれも関連性を確認できず、建物跡を構成するには至らなかった。北・南側の調査区共に、ほ場整備事業などで畑地として整備する際に削平されたものと考えられる。

遺物として縄文土器や須恵器、陶器の破片が数点出土したが、いずれも遺構に伴うものではなかった。耕作土である表土層からのものであり、近年の整地に伴う攪拌によるものと考えられる。

## まとめ

以上の調査の結果より、遺構・遺物ともに希薄であり、県教育委員会等との協議の結果、拡張区からの対象除外となったため、トレンチによる調査のみにとどまった。